

令和7年度 第5回 鎌倉市下水道事業運営審議会会議録

1 日時 令和8年（2026年）1月16日（金）14時55分～17時15分

2 場所 山崎浄化センター管理棟 1階 会議室

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

堀江信之会長（公益社団法人日本下水道協会）、中川直子副会長（中央大学理工学研究科）、岩村千恵子委員（鎌倉市管工事業協同組合）、風間しのぶ委員（東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻）、北原圀彦委員（市民公募委員）、田中隆一委員（日本下水道事業団事業統括部）、若林広晃委員（神奈川県企業庁鎌倉水道営業所）

(2) 幹事及び担当課職員

森都市整備部長、杉浦都市整備部次長兼下水道河川課長、岩崎下水道経営課長、森田浄化センター所長、安富企画課長、山田財政課長、廣瀬下水道経営課課長補佐、今井下水道経営課担当係長、遠藤下水道河川課担当係長、花田浄化センター所長補佐、大八木浄化センター係長

(3) 事務局

根本下水道経営課担当係長、畠山下水道経営課主事、指田下水道経営課事務職員

4 議題

鎌倉市公共下水道経営戦略について

5 会議の概要

(会長) 皆様お揃いですので、令和7年度第5回鎌倉市下水道事業運営審議会を開会いたします。次第に沿って進めます。

初めに、事務局から委員の出席状況他について報告をお願いします。

(事務局) 初めに、本日の委員の出席状況について報告します。

本日の委員出席状況につきましては、9名中7名の御出席をいただいておりますことを報告いたします。

続きまして、本日の傍聴について報告いたします。本日、傍聴希望はありませんでした。

続きまして、会議資料の公開について報告します。審議会資料につきましては公開することとなっておりますので、御承知おきください。

続きまして、本日の資料については、資料一式を机上に配付してあります。また、次第に記載の参考資料についてもファイルにまとめて机上に用意してございますので、適宜御覧ください。

なお、本日の会議につきましても、委員個人の名前は記載しない形で会議録をホームページに公開いたします。

ここまでで何か質問はございますか。

(委員からの発言なし)

(会長) それでは会議を進めます。次第3、「鎌倉市公共下水道経営戦略について」事務局から説明をお願いします。

(事務局) 鎌倉市公共下水道経営戦略の改定について、説明させていただきます。

初めに、経営戦略(素案)に係る意見公募手続きの結果について報告させていただきます。資料2「鎌倉市公共下水道経営戦略2026(素案)に対する意見内容と市の考え方」を御覧ください。前方モニターにも同じ資料を投影しています。意見公募は令和7年10月27日から11月28日まで実施しました。募集方法は、市役所本庁舎や支所、図書館、生涯学習センターにおける冊子の供覧・配布、市ホームページへの掲載を行い、御意見を募集しました。その結果、1件の御意見をいただきました。

御意見の内容は、受益者負担が必要であり、古い設備や配管の刷新が十分にでき、黒字経営ができるような料金に値上げしないと仕方ない。民間のように維持管理、事業経営を考えた経営をしてくださいとのことでした。

市の考え方としては、下水道は重要なインフラで、施設の維持管理が欠かせないこと、それらには多額の費用を要し、賄うためには適切な受益者負担が必要であることを記載し、そのため、下水道使用料については、市民の生活への影響を考慮しつつ、公平かつ適正な料金設定ができるよう慎重に検討を進めており、経営戦略(素案)でも令和8年、11年、16年の改定を予定していること。最後に、市民の皆様へ長期にわたって安定したサービスを提供することを最優先に取り組んでいくことを記載しました。この御意見と市の考え方については、意見募集をした際と同様に、図書館や市ホームページで公表を行いました。

次に、第3回審議会の資料として配付した経営戦略(素案)につきまして、御意見をいただき、素案を修正しましたので、その内容について説明します。資料3「経営戦略(素案)へのご意見と対応について」を御覧ください。この資料は、素案に対していただいた御意見を項目別に整理し、各御意見に対する経営戦略(素案)での対応について、右側に記載しました。なお、御意見の項目に「―(バー)」を記載している項目は、御意見はありませんでしたが、事務局において修正した項目となります。また、ここに記載した項目以外に文言等の微修正を行っています。緑色の網掛けは大きく修正した点で、説明はこの網掛け部分を中心に行います。対応の内容に該当のページ数を記載していますので、資料1「鎌倉市公共下水道経営戦略(素案)」を適宜御参照ください。

資料 3 は 2 ページを御覧ください。整理番号 8 です。項目は「Ⅱ 「経営戦略 2021」の進捗・評価、1 経営戦略 2021 の進捗」となります。御意見といたしましては、「(1) 施設の投資計画」の表に、進捗率をパーセンテージで追記してはどうか。それから、赤色で記載したとおり、文言等を修正したらどうかとの御意見をいただきました。対応といたしましては、資料 1、11 ページになります。まず、進捗率のパーセンテージですが、パーセンテージで記載が可能な投資額につきまして、実績の金額の上にパーセンテージを記載しました。赤色の文言等の修正につきましては、いただいた御意見のとおり修正させていただきました。

次に、整理番号 12「Ⅱ 「経営戦略 2021」の進捗・評価」に「コラム③ 下水道管の調査と改築工事」を新たに追加させていただきました。資料 1 は 16 ページを御参照ください。経営戦略を策定した令和 3 年以前から、下水道管の点検調査や改築工事を実施してきていますが、経営戦略の策定以前に実施した内容については記載がありませんでした。そのため、本コラムを作成し、これまで実施した点検調査等について記載をしたものです。なお、本コラムにつきましては、現時点で少々分かりにくい内容となっておりますので、策定の際には市民の方にも分かりやすい内容に修正したいと考えております。

資料 3 は 3 ページを御覧ください。資料 1 は 25 ページを御参照ください。整理番号 19「Ⅱ 「経営戦略 2021」の進捗・評価、2 経営戦略 2021 の評価」です。御意見といたしまして、PDCA について追記、事業評価、内部・外部監査、進捗を毎年審議会へ報告していること、その結果について何を改善したか記載するとの御意見をいただきました。対応といたしましては、資料 1、25 ページの「(4) 進捗管理・検証・見直し」という項目を追加し、経営戦略 2021 で行った PDCA サイクルについて評価を行いました。

資料 3 は 5 ページを御覧ください。整理番号 27 「Ⅲ 経営戦略 2026、3 経営の基本方針」です。資料 1 は 48 ページを御参照ください。この後「4 主な取組」につきまして、計画執行体制の確保の取組を追加したことから、「(1) 30 年後の下水道事業のあるべき姿（長期目標）、③再構築における官民連携」に体制の確保について追加を行いました。

次に、整理番号 28「Ⅱ 「経営戦略 2021」の進捗・評価」にコラムを新たに追加しました。資料 1 は 46 ページを御参照ください。「コラム⑦ 下水道管きよの健全化予測式」を追加いたしました。経営戦略の中では、本市の下水道管きよについて、老朽化が進んでいることを記載していますが、老朽化イコール施設の寿命ではないことを分かりやすいよう、下水道管きよの健全化予測式をもとに記載をしています。こちらのコラムについても、内容が少々分かりにくくなっておりますので、正式に策定する際には、市民の方にも分かりやすい表現に修正したいと考えております。

資料 3 は 6 ページを御覧ください。整理番号 31「Ⅲ 経営戦略 2026、

4 主な取組」です。資料1は50ページを御参照ください。「(1) 主な取組総括表」について、現時点における投資額(試算)に更新を行いました。

次に、整理番号32「Ⅲ 経営戦略2026、4 主な取組」につきまして、御意見といたしまして、主な取組として、雨水時浸入水と体制の確保について追加をする旨の御意見をいただきました。いただいた御意見を踏まえ、「コラム⑧雨天時浸入水」を資料1、47ページに追加し、計画執行体制の確保の取組を資料1、65ページに追加しました。整理番号33「Ⅱ 「経営戦略2021」の進捗・評価」に新たに「コラム⑨持続化下水道再整備事業」を追加しました。

続きまして、整理番号35「Ⅲ 経営戦略2026、5 投資・財政計画(収支計画)」につきまして、資料1、75ページ以降に記載しております投資・財政計画、収支計画は、現時点における試算に更新を行いました。

以上で説明を終わります。

(会長) ただいまの御説明について何か御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

(委員) 資料2のパブリックコメントで寄せられた市民の意見とそれに対する市の考え方の説明ですが、両方を読むと、意見を寄せた人が何を言いたかったのかということと、あるいは、何が十分理解できていなかったのかということも含めてですが、この意見を寄せた市民の方が市の説明を読んで納得したかどうかというのは、今一つ腑に落ちない気がします。意見を寄せた方は受益者負担が必要だと言っていますが、それに対して市の説明も、受益者負担は必要だが、そう簡単に下水道料金で黒字経営はできないということなのかもしれませんが、意見の内容に丁寧に答えるとしたら、例えば黒字経営という言葉が出てきますが、この下水道事業は公営企業会計で成り立っていて、例えば下水道使用料だけを上げて100パーセント賄う黒字にできるかということ、実際にはできないと思います。ですから、繰入金のこともありますし、公共下水道が他の私設の公共下水道と違う点をもう少し丁寧に説明してもよいのではないかと。何かずれているといいますか、もう少し分かりやすく、そう簡単に黒字経営はできないということを説明しても良かったのではないかと、という点があります。

もう一つは、料金改定のスケジュールが出ていますが、それによってもそう簡単に黒字経営はできない、維持管理もしなければいけないし、事業を継続していかなければいけないので、こういうことを必死で考えていますというものが市の説明の中にあっても良かったのではないかと思います。というのは、最近国もそうですし、地方自治体もそうかと思いますが、議会で政治家や首長さんたちが丁寧な説明を求められたり、丁寧に説明してと常に言われるわけですが、丁寧にということの中身や

説明の仕方が疑問に思う方との間でずれているのではないかと。もう少し噛み砕いてといいますか、ストーンと腑に落ちる説明が必要ではないか。そういったことをどのように広報などでしていくかということが大事だと思います。この意見を寄せた人は料金をどんどん高くすれば黒字経営にできる、民間のような維持管理で事業の継続をと言っていますが、そうできない公共事業の苦勞の部分がこの市の考え方の説明にはあまり出ていないのではないかと思います。苦勞していることは分かりますが、その部分が上手く説明できていないのではないかと感じました。

(幹事) 確かに下水道事業は下水道使用料だけで黒字経営をすることは、現実として難しいというところがございます。御意見としていただきましたとおり、繰入金等を活用しながら行っておりまして、実際に今お話いただいたとおり、繰入金をいただきながらも相当苦勞しながら下水道の運営を行っているところはございます。この後御審議いただきます答申の素案でも、「市民とともに」というところで御意見をいただいておりますが、まずは今回このような御意見を市民の方からいただけるということは、まず一つ、下水道のことを分かってくれる方が出てきたということも正直な感想としてはございます。ただ、まずは広報やイベントの活用、御意見としていただきました学校の授業、そのようなもので下水道の広報。下水道は見えないものなので、おそらく今まで自分たちにあまり関係のない施設ということで、皆さん考えることはなかったと思いますが、まずは広報などで下水道のことを自分のこととして捉えて、少し考えてもらえるようにという、まずそこから始めていくようにということで、今後下水道事業をアピールといいますか、PRをしていきたいと思っています。

(会長) よろしいでしょうか。他には何か御質問やお気づきはありますでしょうか。

(委員からの発言なし)

(会長) 本体の16ページで下水道管の調査や工事について記載がありますが、最近管の事故があったこともあり、市民の方でもうちの管は大丈夫なのかと関心をお持ちの方もでてくるかと思えます。2段落目の3行目で、「その他の汚水管きよは15年に1回の頻度で、点検・調査を実施します。」とあるのですが、これは現実である程度できているのか、それともこれからやろうと思うことなのか、どうでしょうか。

(担当課) 今の御質問ですが、15年に1回というのはまだ実際には実施しておりません。ただ、一般環境下と言われているところは、枝線に含まれている部分もありますので、こういう場所を今予防保全ではなく事後保全で

対応している場合でも、全く調査をしていないのではなく、テレビカメラを通したりしているので、調査の情報はこれから全て蓄積をしていきますので、この15年全く一般環境下の管の状態が見えないというわけではなく、少しずつこのような調査結果のストックを貯めていって、15年とは言わず行えれば良いと考えております。

(会長) 細かな表現ですが、既にできていることと、それからこれからやろうと思っていることとは、見て分かるように表現を少し変える、「このようにしています」「今後このようにする予定です」とかですね。これだと「このようにやっている」と普通の方は思ってしまうので、誤解されにくく工夫してもらおうと良いと思います。

(担当課) 了解いたしました。

(会長) あと似たような観点で、最後のPDCA、86ページです。「経営戦略2026を着実に実施し、中間評価を行うために審議会を常設とし、体制を構築します」と書いてあるのですが、最初にこの戦略を作ったときは、新たに「します」が良いのですが、今回はもう改定で、既に審議会は常設になっているので、「今後も多くする体制で進めます。」とかがより分かりやすいと思います。既にやっていることか、これからやっていくことが、ぱっと分かるように。

(事務局) そうしましたら、「そのため、今後も下水道事業運営審議会を常設として毎年進捗報告、審議を行い、社会情勢変化への対応を含めてPDCAサイクルを機能させる体制を継続してまいります。」のような表現のほうがよろしいでしょうか。

(会長) 基本的に今後も同じならそうですね。
その他には何か御質問やお気づきはありますか。

(委員) 確認させていただきたい点があるのですが、資料1の50ページの表の上に、10年間に行うべき事業をまとめていますと書いてあるのですが、例えば①の0.74キロメートルというのは、今後10年で行うべきものなのか、それとも下に令和7年度末時点で0.33キロメートルと書いてあるので、0.74から0.33を引いたものが今後10年の目標値になるのか、明確な書き方ではないと思うのですが、まずはどちらを意味しているのかということをお教えいただければと思います。

(事務局) こちらにつきましては、令和17年度末に0.74キロメートルまで行うということでして、スタートとなる令和7年度時点は0.33ですので、10年間で差分の0.41キロメートルを実施していくということになります。

(委員) そうすると投資額はどういうことになるのでしょうか。1.3 億円としか書いてありませんが、これは今後 10 年で必要な投資ですか。

(事務局) 今後 10 年間で必要な投資額となります。

(委員) そうするとやはり書き方に齟齬があるといえますか、そこまで詳しく確認する人がいるかどうかは別として、やはり気になってしまう方もいるかと思うので、10 年間に行うべきというところを変えるか、この表の中身の書き方を少し工夫していただくほうが良いのではないかと思います。

(会長) 例えばですが、上の緑のところでは目標数量と書いて令和 17 年度末、令和 7 年度末と書いてあるので、令和 17 年度末目標と令和 7 年度末実績と書く手はありますか。

(事務局) 「②民間開発団地に埋設している污水管の修繕・改築」など、令和 7 年度末時点で 0 キロメートルがスタートというものもありますが、令和 7 年度末実績という表現でよろしいのかどうか。

(委員) この令和 7 年度末までの実績を入れたかった理由といえますか、何か意図はあるのでしょうか。そうでなければ 0 からスタートでも良いという気もします。

(事務局) 例えば「①緊急輸送道路・軌道下に埋設している污水管の修繕・改築」でいうと、10 年間で行うのは 0.41 キロメートルなのですが、令和 17 年度末に 0.41 キロメートルだけ行ったわけではなく、過去にあった 0.33 キロメートルも踏まえて、令和 17 年度末には 0.74 キロメートルまで行っているということをここでは表現したかったです。

(委員) やるべき長さが 0.74 キロメートルあって、令和 7 年度までに 0.33 キロメートル行っているということを示したいのであれば、もう少しこの表の中に入れる。表現を変えるとかしたほうが明確になるかと思えます。検討いただければと思います。

(幹事) 会長がおっしゃったように、令和 17 年度末の目標、令和 7 年度末までの実績ということが分かるように。そして、その実績としては 0 だったということで。投資額につきましては、10 年間の投資額と記載するというので、一度事務局でそのように修正してみます。

(委員) ありがとうございます。もう 1 点は 32 ページのコラムです。「⑤雨水

管理総合計画」の「1 雨の強さの見直し」のところで、最初のブルーのトピックスの中で文章で説明していただいているのは分かりやすかったのですが、それと照らし合わせてその下の図表を見ると、少し理解が及ばなくなってしまいます。例えば、これまでは1時間あたり57.1ミリメートルで、下を見ると57.1ミリメートルでなるほどと思うのですが、10分あたり19.4ミリメートルでその数字どこだろうと思って下を見ると、10分の雨量が116.6ミリメートルになっていて、なかなか説明いただかないと分かりにくい図表だと思います。例えば降雨強度式が書いてありますが、そこまで詳しい説明を入れる必要はないかなと思っています。質問がまとまらないのですが、文章だけでも十分伝わるので、詳しいこの式や図表を見ることで若干混乱してしまうような図はないほうが良いといたしますか、修正していただいたほうが良いかと思えます。

ちなみに、19.4ミリメートルや21.3ミリメートルというのは、どこを見れば分かるのでしょうか。19.4ミリメートルは、下の右のグラフのマックスの10分前の雨の強さが19.4ミリメートルぐらいかなと見てとれるのですが、例えば21.3ミリメートルは、左の図だと見て取れませんが、もちろん上の表にある数値とかけ離れているので、見直しをしていただくとうまいかと思えます。

(担当課) こちらの降雨強度式とは、1時間当たりの雨の量を示しているものです。実際の10分間の最大降雨量というのは、10分間の降雨強度の6倍となるので、6で割り返したものが10分間雨量となります。この表に出ている116.6ミリメートルや127.7ミリメートルというのは、短時間で強い雨が降っていることを表現していますが、若干分かりにくいところがあるかと思えますので、少し検討してみます。

(委員) そうすると、あっても下の図だけでも良いという気がします。グラフで見ると21.3ミリメートルが読み取れないので、もしかしたら何か間違っているのかなという気がします。

(担当課) ここがまた複雑なのですが、59.7ミリメートルというのは、気候変動を踏まえて1.1倍しています。そのため、この59.7ミリメートルより少し少ない数字がグラフ上は出ていると思われ、これが実際の1.1倍する前の降雨量となっています。

(委員) 21.3の1時間あたり1.1倍した1時間あたりが59.7は、このグラフから計算すると少し大変なのですが、10分当たりの21.3ミリメートルというのは、直感的に一番見てとれるじゃないですか。

(幹事) グラフから読み取るわけではなく、降雨強度式から計算するわけです。

が、確かにおっしゃるとおりコラムですので、市民の方が見たときに、これまでは57.1ミリメートル、10分当たりだと19.4ミリメートルだった。それが気候変動を考慮して1.1倍をして、我々土木のプロが計算した結果というところを省いて、59.7ミリメートル、10分当たり21.3ミリメートルという結果になりましたというところだけでよろしいかと。ですので、この文章は残すとしても、表中の降雨強度式と混乱してしまう10分雨量については削除をして、このグラフですが、鎌倉の近辺の場合ですと、結果的にこのようなグラフになるのですが、今まではダラダラと降っていた雨が、同じ1時間当たりの雨量であったとしても、ゲリラ豪雨で非常に短時間に、ものの10分、20分でドサッと降るというグラフになる予定だったのですが、実際に厳密にグラフにしてみると、それでも強くなっているのですが、それを合わせるということで入れております。

(委員) この図を生かしていただくか、短時間に集中して雨が降るという変化が起きているというイメージ図を入れるだけでも良いのかと思います。御検討いただければと思います。

(会長) 今のページのところですが、式は確かに書いても誰も分からないので消したほうが良いかと思います。それから10分雨量のところは単純に19.4ミリメートルと21.3ミリメートルと書けば良いかと思いますがし、グラフのところも、計画に基づくところは21.3ミリメートルになっているのが本来の姿だと思うのですが、この左側の濃い青のグラフは何を表しているのですか。なぜ24くらいになっているのか分かりますか。

(担当課) 今回見直しを行う降雨強度式 $4725 / (t+27)$ の t に、60を入れて計算していただくと、59.7ミリメートルにはならず、54.3ミリメートルになります。60分雨量を今回計算するに当たって、気候変動を考慮するというので、60分降雨強度この54.3ミリメートルを1.1倍した59.7ミリメートルとなり、それが今回の60分雨量という計算式になっているのですが、こちらのグラフに関しては、54.3ミリメートルでの降雨量、降雨強度式でのグラフが今載ってしまっているので、10分当たりの降雨量の数字が変わってきてしまっているのではないかと思います。分かりにくいと思うので、そこは改善したいと思います。

(会長) 1.1倍する前の54ミリメートルのときの場合とすると、そこで10分が24もあるのであれば、10分は1.1倍になって26余りになるはずで、1.1倍して21.3になるべきものが、元の数値でなぜ24になるのか確認いただければ良いのですが、1.1倍したグラフがもしあるのであれば、それにすれば良いだけですよね。もう一つ、文章は元の数値を言ってから新しい数値を言っているの、左側を現行にして右を新しい計画

にしたほうが、より頭が混乱しないかもしれない。確認していただいて、すっと頭に入るような形にさせていただければと思います。

その他何か御質問とかありますか。

(委員) あとこれも細かいことですが、74ページのウォーターPPPのところ
で、「ヒト」「モノ」「カネ」のうち「モノ」は一体発注とあって、「カネ」は一括発注とあります。これはやはりこういう別の言葉が良いのかなという気もするのですが、一体発注と一括発注というのは一般市民にすると何か違いがあるのかという気がしないでもないので、一応その辺は確認だけしておいてください。「ヒト」も一括発注になっていますね。「ヒト」と「カネ」が一括発注で「モノ」は一体発注なので、言葉の使い方としてはそれで良いのかという気もしますが、少し用心をして何かからくりがあるのではないかという目で見ると、そういったところにも目が向くと思いますので、一応確認をお願いします。

ずっと単純な細かいことばかりになりますけれども、16ページで伏越し箇所が出てきます。伏越しという場所がそもそもどこなのかということが分かりにくいと思います。その説明を入れるかどうかは別にして、その伏越し箇所というのは鎌倉の下水道に特有の、特に他市に比べて多い場所だと思うので、例えば「旧市街に多い伏越し箇所」と入れるなど、伏越し箇所ということをもう少し強調しても良いのではないかと思います。

それから、これも細かいことですが、47ページの雨天時浸入水のところで、雨天時浸入水の要因と事象ということで非常に分かりやすい図が出ています。これを見てもらえると市民には非常に役に立つと思いますが、図の中の雨どいから水が入るところは赤色のバツで、はっきりとは読めませんがおそらく誤接合と書いてあって、本文では誤接続となっています。前からこの審議会では誤接続と聞いていた気がしますので、どちらに統一しても分かる言葉ではありますけれども、誤接合よりも誤接続のほうが良いと思います。あるいは何か専門用語なのかもしれませんが、そういう配慮も必要だとは思いますが、この図は非常に分かりやすく、これから下水道に関心を持ってもらううえで役に立つと思います。

(幹事) 順番が逆になってしまいますが、発注は取りまとめて、一括で発注するということになります。この処理場については既に改築、塊と言えば1回ですね、発注するというで一応使い分けをさせていただいたところがございます。戻りますが、誤接続に関しましては、私どもは誤接続と言っておりまして、おそらく良いイラストが見つかったのでイラストをどこからか持ってきて、それを引用させていただいているのですが、誤接合という言葉になっておりましたので修正させていただきます。最初の伏越しについては、これまでも進捗の中でイラスト等を用い

ておりますので、もう少し分かりやすくなるように、こちらのコラムにつきましては、市民の方に読んでいただいて、まだ文章だけでなるほどと思っただくことは少し難しいので、最初に言ったとおり、私ども事務局でももう少し経緯といいますか、分かりやすくもう少し楽しめると思いますか、読んでいただけるように修正をしていきたいと考えております。一体発注は一体して発注するという、そのような表現でこのように表記をしています。

(会長) 今の点で、一体と一括を使い分ける必要があるのかもよく分からず、統一してしまうのも手かと思います。

(幹事) そちらについては確認してみます。

(会長) お願いします。また、伏越しのところは確かに図などがあつたほうが分かりやすいでしょうし、どこまで増やしていくかが悩ましいところですが、可能であれば、一目で分かるほうが良いのかと思います。
他にはなにかありますか。

(委員からの発言なし)

(会長) いろいろ細かいことも含めていくつか。あまり時間がないところですが、直せるところは直していただいて、皆さんに知らせていただく。この場で修正しますか。

(事務局) 今お時間いただければ、この本文のところについてはすぐ修正して皆様にお示しして、コラムについては事務局で後日修正をさせていただければと思います。

(会長) その他、本文そのものについてお気づきのことありますか。

(委員からの発言なし)

(事務局) 一度休憩入れて少し文章を修正いただいて、また再開したいと思います。

(休憩)

(会長) それでは文章について修正について説明いただけますか。

(事務局) ただ今いただきました御意見を踏まえ、経営戦略(素案)を修正させていただきました。

初めに、経営戦略（素案）50 ページを御覧ください。まず、数量につきまして、赤字で示しましたとおり、数量で令和 17 年度末目標、括弧で閉じて令和 7 年度末実績とさせていただきます。

それから、「①緊急輸送道路・軌道下に埋設している污水管の修繕・改築」「②民間開発団地に埋設している污水管の修繕・改築」につきまして、緊急輸送道路・軌道下に埋設している污水管の総延長が分かるように、括弧書きで総延長 26 キロメートル、それから、民間開発団地に埋設している污水管の総延長が分かるように、括弧書きで総延長 87 キロメートルと追加させていただきます。

それから、こちらの令和 17 年度末に向けた数量に関しまして、現時点の調査結果に基づく目標数量であることを注釈として入れさせていただきます。

それから、「①緊急輸送道路・軌道下に埋設している污水管の修繕・改築」の項目に、今後の調査結果により、目標数量の増加が考えられる旨を記載させていただきます。体裁につきましては、この後事務局で整えさせていただきます。

それから、総括表で令和 17 年度末の目標数量、令和 7 年度末の実績数量とさせていただきますので、併せて各項目につきましても、令和 17 年度末の目標数量、令和 7 年度末の実績目標という記載に修正させていただきます。

それから、86 ページを御覧ください。「6 進捗管理・検証・見直し」の項目につきまして、御意見を踏まえ修正させていただきます。赤字部分となります。「そのため、常設とした鎌倉市下水道事業運営審議会で毎年進捗報告、審議を行い、社会情勢変化への対応を含めて PDCA サイクルを機能させます。」という文言に修正させていただきます。

(会長) 修正本文についてはこのような修正で、コラムについてはまた後で直していただいて、送っていただくということで進めたいと思います。
何か表現について何かお気づきや質問などありますか。

(委員) 修正していただきましたけれども、既にこの常設とした下水道事業運営審議会で毎年進捗報告、審議を行っているわけですよね。ですから、何か「継続して」や、「今までやってきているものをさらに継続させていただきます」という、そういった雰囲気を出したほうが良いのではないですか。現在も PDCA サイクルを機能させているのですよね。

(幹事) 「PDCA サイクルの機能を継続させます」でしょうか。

(委員) はい。継続ということを書いたほうが良いと思います。
質問ですが、先ほどの 50 ページで、10 年間の投資額で試算となっていますが、実際にかかった投資額、例えば「①緊急輸送道路・軌道下に埋設

している污水管の修繕・改築」の0.33キロメートル、この部分にかかった費用は大体どのぐらいなのか教えていただけますか。

(幹 事) 実際にかかった金額ですが、5年前に策定した経営戦略2021の進捗の振り返りを11ページで行っておりまして、こちらに関しましては数値を丸めてしまっているため少し数値が異なりますが、0.4キロメートル行ったということになっています。このときは実績で7,200万円です。

(委 員) 市民の方が読むものなので、納得していただけるようにしたほうが良いと思います。

いつも御意見を何か一つは言おうと思ってこちらに臨んでいるのですが、例えば今回のように、「コラムはまだ分かりにくいのでこれから修正します」と言われると、コラムを読んでもこれは特に注目して読まなくても良かったんだと思ってしまいます。今回は特にこの部分について御意見を聞きたいということをあらかじめメールで言ってくださると、もっと見方が変わるといいますか、こういったファイルは容量があって、なかなか全部を見るのはやはり難しいところがありますので、今特にここが迷っているのここを重点的に確認してもらいたいなど、そういったことを何か言ってくださると、もう少し御意見も出やすくなると思います。

(事 務 局) 御意見ありがとうございます。

(会 長) 他には何かありますか。

(委員からの発言なし)

(会 長) そうしましたら、今日まで何回か議論、審議を重ねていますが、ここで本文については内容を決定させていただきます。コラムの部分と誤字等で最後の修正が必要となった場合については、私の方で内容を確認させていただいて、それで確定する形にしたいと思いますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

(会 長) そのようにさせていただいて、続いて次の答申について事務局から説明をお願いします。

(事 務 局) 鎌倉市公共下水道経営戦略の改定に係る答申(案)について説明させていただきます。前回審議会でもいただきました答申(素案)に対する委員の御意見を踏まえ、答申(案)を作成しましたので、主な変更点につ

いて説明します。

資料4「鎌倉市公共下水道経営戦略の改定について（答申）（案）」を御覧ください。答申（素案）からの変更箇所を黄色い網掛けとしています。

まず、令和5年度に行った下水道使用料の改定について、総務省が示す最低限の目安である使用料単価がいくらなのか分かりやすくするため、1立方メートル当たり150円の使用料単価を追加しました。

次に、2ページ目を御覧ください。「(1) 待ったなしの再構築体制の構築」につきまして、記載の表現を分かりやすいよう修正を行いました。

次に、「(3) 最適な事業運営へ」の項目につきまして、コスト、リスク、パフォーマンスの表現につきまして、分かりやすい表現にしたほうが良いのではないかと御意見を踏まえ、修正を行いました。また、PDCAサイクルのうち、特にCのチェック、Aのアクションが具体的に機能する仕組みを検討するよう追加をしてほしいという御意見を踏まえ、修正させていただきました。

次に、「(4) 市民とともに」につきましては、「現状と今後を積極的に伝え」について、具体的な例などを入れたほうが良いのではないかと御意見を踏まえ、網掛けのとおり追記させていただきました。

資料5につきましては、答申（素案）への御意見につきまして、いただいた御意見をまとめさせていただいた資料となります。以上で説明を終わります。

(会長) ありがとうございます。ただいま答申（案）について説明がございましたが、その報告内容につきまして、御意見等ありましたらお願いいたします。

(委員) 付帯意見の「(1) 待ったなしの再構築体制の構築」で三つの段落がありますが、順番を少し変えてほしいと思います。具体的に申し上げます。一番最後の段落にある「鎌倉市の下水道事業では、大量の下水道施設の最適な改築更新・再構築が待ったなしの状態にあります。」あるいは「状況にあります。」というのを一番最初に入れて、その後「老朽化した下水道施設を運転し続けながら、」そしてさらにその次に、「高度化・複雑化する施工方法の中から」を入れて、最後は「適切な投資の計画を迅速に作成・実行可能とする体制を、直ちに検討し、構築してください。」としたほうが良いのではないかと感じました。

(事務局) ありがとうございます。一番最後の段落の「鎌倉市の下水道事業では、大量の下水道施設の最適な改築更新・再構築が待ったなしの状況です。」というのを一番初めに持ってくるということですね。

(委員) 二つ目のところも、「立案できるか否かによって、事業期間やコストは大きく変わります。」というよりも、「老朽化が進行し投資の先送りが許

されないなかで」というのはもう省いてしまって、「高度化・複雑化する施工方法の中から適切な手法の選択、適切な投資計画の立案は、事業期間やコストに大きく影響します。」などとすれば、かなりすっきりして分かりやすく、説得力のある表現になるのではないかと思います。

(幹 事) 今の御意見で修正した文章を事務局が用意しましたので、事務局で実際に読み上げてもらいます。

(事務局) 鎌倉市の下水道事業では、大量の下水道施設の最適な改築更新・再構築が待ったなしの状況にあります。老朽化した下水道施設を運転し続けながら、災害に強く、維持管理も行いやすい施設に再構築していくためには、多額の費用と多大な労力だけではなく、新しく整備を行うよりもはるかに高く幅広い技術力が必要となります。また、高度化・複雑化する施工方法の中から適切な手法を選択し、適切な投資の計画の立案は、事業期間やコストに大きく影響します。以上のことから、適切な投資の計画を迅速に作成・実行可能とする体制を、直ちに検討し、構築してください。

(委員) 「高度化・複雑化する施工方法の中からの適切な手法の選択や、適切な投資計画の立案は、事業計画やコストに大きく影響します。」あるいは「大きく影響を与えます。」。それから、「高く幅広い技術力」のところもできれば、高くではなく、「高度で幅広い」のほうが良いと思います。それと一番最初の「鎌倉市の下水道事業で」ではなく、「鎌倉市の下水道事業は」のほうが良いと思います。

(委員) これだと少し意味が変わってしまっている気がします。「高度化・複雑化する施工方法の中から適切な手法を選択し、計画を立案できるか否かによって、事業期間やコストが大きく変わります。」ということを実は言いたかったと思うのですが、この文章だと少し変わってしまったと思います。まだ前の文章の「老朽化が進行し投資の先送りが許されないなかで」を消しただけのほうが分かりやすいと思います。

(会長) 名詞にすることによって短くシンプルにはなりますが、それがどういうことを変えるのかなど、よく分からなくなってくるので、長くはなりますが具体的に書いてあげる部分は残したほうが、読んだときにすぐ分かるような気がします。

(委員) わたしも元の文章のほうが分かりやすいと思います。「適切な」という言葉が続いてしまいますし、いろいろな手法や立案の仕方によって影響するから適切なものが必要だという論理でいくのであれば、「適切な」と続いているのはいらないと思います。要するに前の文章のほうが分かり

やすいと思います。

- (委員) 言葉だけのことで言えば、最初の「適切な手法の選択」のところを、「最適な手法の選択で適切な投資計画」にすれば良いと思います。
- (委員) 最初に「鎌倉市の下水道事業では、大量の下水道施設の最適な改築更新・再構築が待ったなしの状況にあります。」と記載することについては、とても重要かと思います。次の、「施設を運転し続けながら再構築していく必要がある」から始まる２段落目までは良いと思います。
- (委員) 「新しく整備を行うよりもはるかに高く幅広い技術力が必要となります。」の後に「しかも」を入れたいです。
- (会長) 上の「また」以降の文章が新しい文章ですよ。それで旧来の下の文章は「適切な」が２回あるので、最初の「適切な」を赤字で「最適な」にして、どちらが良いか。
- (委員) 「最適な手法を選択し、」さらに言えば「最善」でも良いですね。「最善の投資計画を立案できる。」と。
- (委員) 個人的には最初の「最適な」を取ってしまって良いと思います。高度化・複雑化する施工方法の中からの手法を選択し、適切に投資計画を立案できるということなので。「最適な手法」と「適切な計画」は、一連的な流れなので別だと感じません。
- (会長) 一連の流れではあるので、まず手法がいろいろあって、その中からどれを取るか。今度計画になったときは、それをタイムスパンの中でいろいろな段取りをどうしていくかという形を決めて、計画に仕上げるということなのでしょうけれど。
- (委員) 私も「最適な改築更新・再構築が待ったなしの」とあるので、手法の方は「最適」でよろしいかと思いますし、「最善の投資計画」とはあまり聞かない気がします。「適切な計画」で良いのではないかと思います。
- (委員) そうでなければ、「適切」、「最善」ではなく、「より良い投資計画」はどうでしょうか。
- (会長) 要するに比較論を入れたほうが良いということですよ。
- (委員) 投資計画というと、やはり技術だけじゃなくお金も絡んでくると思います。

- (会長) 「最善」より、「より良い」のほうが良いですかね。
- (委員) 一番下は、「以上のことから」ではなくて、「以上の計画を迅速に作成・実行可能とする」でしょうか。
- (委員) これは投資だけの計画を作成・実行するということで良いですか。
- (会長) 手法を選択して、それでスパンなどいろいろなことを考慮して、手法も含めて計画がまとまります。
- (委員) 「投資の計画を」と書いてあるので、そこは「投資の」を入れておいたほうが良いのかは分かりませんが、投資の計画だけで良いのですか。それはもう手法も含めてという意味で入っているのですね。それが決まったら投資計画が立案できるということですね。
- (会長) そうです。投資計画は、手法は選定することが前提なので、お金を見積もって、いろいろな体制ができてどんなことをやっていくかを含めて全体を計画、投資計画としてまとめるという段取りになります。そうしたら最後の文章は原文に戻して良いですか。
一旦これで置いといて、他の部分も含めて何かありますか。
- (委員) 「(3)最適な事業運営へ」の冒頭のところですが、下水道機能(パフォーマンス)の向上や事故の可能性(リスク)の低減には、費用(コスト)が上昇します。」というのを、「可能性(リスク)の低減には、多額の費用(コスト)が欠かせません。しかし、費用(コスト)の過度な削減は、下水道機能(パフォーマンス)の低下や事故の可能性(リスク)を招きます。」のほうが良いのではないかと思います。
- (会長) 原文はおそらく、単純に向上、低減、上昇、削減、低下、増大と変化として書いている。新しい文章の方は、上昇というよりは欠かせない。普通の方は、そのほうが分かりやすいのではないかという感覚の違いですよね。
- (委員) あとは「(4)市民とともに」のところですが、「イベントの活用」のイベントの前に、「各種」というのを補っていただければと思います。
- (委員) 細かいところですが、「ともに」と「一緒に」は同じ意味なので、「ともに」入らないのではないですか。
- (幹事) そうすると、タイトルが「市民とともに」なので、「市民とともに考えながら」で良いですか。

(委員) 良いと思います。

(委員) 「市民とともに」の前に、できれば「常に」と入れていただきたいです。

(幹事) 冒頭でも委員からパブコメの御意見というところでお話がありましたが、我々も一応これまで下水道のことを知ってもらおうと思って広報などを作ってきたりしましたが、正直いかんせん皆さん流してしまうともう忘れてしまうというところがございまして、なかなか下水道を市民とともに考えながら事業を進めるところに行くのは、正直かなりハードルが高いというところで、まずそういった形で広報を通じて、まずは知ってもらおうと、流したらおしまいではなくて、下水道は自分たちの財産だということ、自分事とまでは言いませんが、自分たちに関係があるということを少し考えてもらえると、まずはそこからではないかと。それをしていくことによって、今回パブコメは1件でしたが、下水道の方で何かとPR等を通じて経営戦略等を定めるときには、パブコメも一つの市民参画の方法ですし、またこの審議会の場合に来ていただいて、御意見をいただけるということは非常にありがたいので、そういったところに参画していただいて事業と一緒に進めていけるようにしていきたいということを常々考えているところがございます。ですので、それを常に市民とともに考えながらとなると、こういった状況といいますか、こういった目標イメージというのがあれば教えていただけるとありがたいです。

(委員) すみません。「常に」は撤回します。

(会長) 一度通しで読みますか。

(事務局) 付帯意見を読ませていただきます。

「(1) 待ったなしの再構築体制の構築」。鎌倉市の下水道事業は、大量の下水道施設の最適な改築更新・再構築は待ったなしの状況にあります。老朽化した下水道施設を運転し続けながら、災害に強く、維持管理も行いやすい施設に再構築していくためには、多額の費用と多大な労力だけではなく、新しく整備を行うよりも遥かに高度で幅広い技術力が必要となります。高度化・複雑化する施工法の方法の中から最適な手法を選択し、より良い投資計画を立案できるか否かによって、事業計画やコストは大きく変わります。以上のことから、適切な投資の計画を迅速に作成・実行可能とする体制を直ちに検討し、構築してください。

「(2) 民間の大胆な活用」。技術力・財政的・体制的に困難な改築更新・再構築を実行するには、これまでと次元の異なる民間活用が不可欠で、

国も民間活力手法の一つ、ウォーターPPPの導入を、污水管更新を支援する条件としています。国全体が慢性的な人手不足に突入した現在、全国の地方自治体が一斉に民間活力を必要とするなか、鎌倉市の下水道事業が民間にとって魅力ある事業となるよう、様々な側面から検討してください。

「(3)最適な事業運営へ」。下水道機能（パフォーマンス）の向上や事故の可能性（リスク）の低減には、多額の費用（コスト）が欠かせません。しかし、費用（コスト）の過度な削減は、下水道機能（パフォーマンス）の低下や事故の可能性（リスク）の増大を招きます。課題山積みの状況下において、様々なインフラの中でも下水道事業は、このような「パフォーマンス」、「リスク」、「コスト」の最適なバランスを取りながら事業を進める必要があります。このため、PDCAサイクルのうち、特にC（チェック）とA（アクション）を具体的に機能させるアセットマネジメント手法を、可能なところから導入するよう検討してください。加えて、市民の負担も考慮しながら優先順位を明確にして事業を進めてください。

「(4)市民とともに」。市の持つインフラの施設の中でも、下水道は最大のインフラであり、安全で快適な暮らしに欠かせない市民の大きな財産である一方、最も見えにくいインフラです。災害や事故時以外、意識されることがなく、市の公表が唯一の情報となる傾向があります。「広報かまくら下水道特集号の発行」や「各種イベントの活用」、「学校授業を活用した下水道の啓発」など、日ごろから現状と今後積極的に伝える手法も検討し、市民とともに考えながら事業を進めるよう工夫してください。以上となります。

- (委員) どうしたら市民の皆様が下水道を身近に考えてもらえるのかなと考えたときに、やはり私たちは食べるというのを繰り返していますので、出すたびに下水道のことを考えようといいますが、何かそういうところで実は身近なものということを考えていかれると良いですね。
- (会長) 今聞いて思いましたけれども、ご飯を食べるときは「いただきます」と言うので、下水道を使うときにも何か用語を作ったらどうでしょう。使うときに、その先どうなるか1回考えようということですね。
- (委員) 下水道がこれだけ広がったというだけでもありがたいと感じている方が多いと思います。
- (会長) 一定年齢以上の方はそうですね。
- (幹事) 実際に学校、特に小学生とかはこの処理場の施設見学に来ます。そういった場を活用して、皆さんが食べた後に下水道はどうなるのかということをお話して、それを家庭に持ち帰ってもらって、今日こんな話を聞

いたということで親の世代の方々にも考えるきっかけになってもらえれば良いかなということを考えていきたいです。実際今お話にあったように、鎌倉市でもどんどん下水道を延ばしていた平成の初めぐらいのときは、皆さんおそらく下水道のことを非常に考えていてくださって、説明会を開催すると、会場に入りきれないぐらい来たということもあります。下水道はできてしまうと見えないということもあって、忘れるのが早くなってしまふということもありますので、きっかけを与えていって、一つ少しだけ考えてもらえればということで、事業を進めていきたいと考えております。

(会長) 思いつきですが、広報のときにトイレで流す絵を描いて、そこに吹き出しに「下水道ありがとう」と書いて流すというのは一つ手かもしれないですね。広報の中身を具体的に考えるときに、何か記憶に残るキャッチフレーズで。普通に文章だけだと読んで終わってしまうので、頭から離れない何か、上手く見つかると思います。

(委員) 比較でしょうね。下水道が進んでいないような地域でこのような感じ、日本ではこのような感じですよという比較です。もう説明文なんかいらなそうです。それだけでも分かります。

(会長) 下水道協会の資料か、あるいは、小学生向けの新聞が春に作られていて、私も5年ほど作っていたのですが、そこに下水道がなかった昔と今を比較した絵がありましたね。汚れていて、ハエがブンブン飛んでいて鼻をつまんでいるような絵だったような気がします。何か他に良いアイデアがあるようでしたらお願いします。

(委員) 小学校の授業で下水処理場へ見学に行くと思いますが、そのとき用のパンフレットがありましたね。それを少し工夫して、今会長が言われたようなインパクトの強いイラストを入れるとか、何かあまりお金をかけないでやれることを考えて配るとというのが、20年、30年後の下水のことを考えると、一番手っ取り早い教育方法といますか、普及の方法かもしれないですね。我々には30年後のことなんてあまり分かりませんから、これからの市民向けに下水道が常に意識されるような、強烈なものが良いか、さりげないものが良いか、とにかく頭のどこかに残るようなそういった教材をなるべくお金をかけずに用意するのが良いと思います。

(幹事) ありがとうございます。私も先輩から聞いた話ですが、処理場に子供たちが来て、スプーン1杯のマヨネーズを排水溝に流すと、風呂場1杯、2杯ぐらいの水が必要だということを先輩方が子供に話をします。その子供はすごいインパクトがあって、家に帰って子供からマヨネーズを捨て

るなど教えられた親御さんからの声を聞いて印象に残っていますので、例えばそういうのを残せるような、口頭ではなく分かりやすくするようなものは、これからの人たちに考えてもらおうと思います。

(会 長) 他に答申文そのものについて何かありますか。

(委員からの発言なし)

(会 長) なければ一応これでまとめで、先ほどと同じようにまた何か微修正があるようでしたら、私の方で確認させていただいて、それで最終としたいと思います。直ったものはまた他の皆さんにお送りするのでよろしいですか。

(事務局) はい。

(会 長) よろしく申し上げます。この答申については1月22日ですから、もう時間はあまりありません。市長に答申を行うこととなりますけれども、出席いただく方については、後で事務局から確認をお願いします。その他で事務局から補足等ありますでしょうか。

(担当課) 前回審議会で報告しました雨水管理総合計画(素案)につきましては、パブリックコメントを令和7年12月1日から令和8年1月9日まで実施しましたが、意見等はありませんでした。今後は策定に向けた内部手続きを進め、令和7年度中の策定を行う予定です。以上です。

(会 長) ありがとうございます。雨水管理総合計画のパブリックコメントの報告でした。

以上で審議関係については一通り終わりになりますが、今回この審議会については一旦最後になるかと思えます。よろしければ御感想を一言ずつお願いできればと思います。

(委 員) 私は上水道事業を管理する立場で出席させていただいておりましたが、下水道事業も公営企業ですので同じように事業を運営していると思いましたが、全く状況が異なっていました。特に管路更新の進め方が大きく異なり勉強になりました。今回の審議会で経験させていただいた事項を今後の上水道事業にも生かしていきたいと考えております。ありがとうございました。

(委 員) 私も2点ほど気になっているところがあります。一つ目は、やはりウォーターPPPです。地方公共団体が技術職の人を採用することが非常に難しいというのが根本的にあるということですが、技術職の人を採用す

るのに困っているのは地方公共団体だけではなく、民間の企業であっても足りないと言っています。ですので、その足りないと言っている民間企業と一緒に足りなのかという、そもそも根本的なものが違いますというのがあって、実はもうそこら辺のところはしっかり一緒にやっていく民間企業がもう間違いなく大丈夫だと言えるのであれば良いのですが、これは想像ですが、本当にそういうこと言えますかというのが微妙なのではないかと思えます。ですので、このウォーターPPP をやっていきますと言っても、本当にやっていけるというのを前に出せるのであれば、これ以上私が言うことはないのですが、そこも分からないというのであれば、今後の対応については国や周りの方針に合わせた形でやりますという言い方に変えて言うということです。うちの方が積極的にやりますというのではなく、そこら辺の言い方を考えてほしいというのがあります。

あともう1点は、老朽化という概念です。要は、管きよの老朽化とかと言うのですが、一般的に法定耐用年数や標準耐用年数というのが50年と言っていますが、もう既に50年超えるまでにどうこうするという昔の考え方ではもう遅いということを言いたいです。確かに標準耐用年数は50年ですが、実質的には70年、80年と持たせるようにしますよということです。そのようなものを基準として今後考えていただければ良いと思っております。50年という耐用年数を70年、80年、90年と延ばしていくにはどうしたら良いのかという。ただ、維持管理費に非常にお金をつぎ込んでいきますというのにも必要になってくるわけです。なので、なぜ維持管理費にこれだけのお金をもう入れなくてはいけないのかと言ったら、それは耐用年数を延ばすためですということです。そこら辺の考え方を、言い方はもう完全に変わっていくと。50年で老朽化と言わないでいくことも考えてほしいです。ただ簡単に言えないというのもあるんで、直線だったらもう50年以上持つというのは分かるのですが、カーブだったらそもそも50年ももたないのではないのかというのもあるでしょうし、そこら辺の考え方も難しいのですが、ぜひ耐用年数は50年という一つの年数だけで考えるのはもう止めていただきたいと思っております。

(委員) 市民委員という立場ですが、一人しかいませんのでつついいろいろ言い過ぎてしまいました。最後にお詫びします。

(委員) 今回審議の委員として初めて参加させていただいたのですが、これまでは処理の議論などそういったことしか大学とかで学んでいなかったもので、下水道事業がどのように運営されているのか、支えられているのかということが完全に分かりきってはいませんが、少し理解できてとても嬉しく思いました。学生から質問されたときに薄っぺらい回答ではなくて、説得力のあるような回答もできるようになるのではないかと思っています。大変勉強になりました。ありがとうございました。

- (委員) 初めてこういった委員になりました、非常に勉強になった2年間でした。浄化センターも見学させていただいて勉強になったし、普段の仕事との関係もありますので、今後一番私が気になったのは、山崎浄化センター下水道一本化というところでどのような工事をしていくのかです。また、鎌倉市役所の職員の方々が本当に鎌倉市のために日々考えてくださっているということが、今回非常に分かりました。ありがとうございます。
- (委員) 他の地方自治体でも審議していますが、こちらの会議は手ぶらで来られて、オンラインでも参加できることが非常にありがたく思っております。素案についてのことは先ほど意見させていただいたところです。
- (会長) おそらく他の自治体のものと比べていただくと、この経営戦略はかなり充実といたしますか、中身はかなりしっかりしていると思います。かけた時間がかかり長かったのかと思います。皆さんからいろんな御意見をいただいて、その都度ずっと対応していただいて、本当に事務局の労力に感謝申し上げたいと思います。こういったものを作る時は必ずそうですけど、繰り返し読んでるとまた気付くことがあるので、直していただいて、おかげさまでしっかり良いもの、誇れるものに仕上げさせていただいたと思います。
- (幹事) 本日も御審議いただきましてありがとうございます。本日でこの審議会は終わりとなります。2年間にわたりまして10回御審議をいただいたところでございます。答申までまとめていただきまして本当にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。昨年の10月に御審議をいただきました下水道使用料につきましては、今年の10月、令和8年10月の改定に向けまして現在、条例改正の準備に入っております。また、本日まとめていただきました経営戦略につきましては、今後の下水道事業につきましてこの経営戦略をもとに下水道事業を進めてまいりたいと思っております。市民の皆様は今後安全安心な下水道を提供していくために、職員一同取り組んでまいりますので、皆様におかれましても引き続き本市の下水道事業に執行支援と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。本当に2年間ありがとうございました。
- (会長) 長期間いろいろありがとうございました。これをもちまして今日の下水道事業運営審議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

以上